

2009年(平成21年)12月16日(水曜日)

石井クリニック 石井泰憲
院長(浦和区)

知っておきたい

泌尿器科がん

腎がん編

(10)



石井泰憲医師

腎臓にできる腫瘍(しゅよう)のうち、約80%が成人の腎実質から発生する腎がん。大半が腎細胞がんです。腎臓の糸球体でろ過されたものが最初に流れてくる尿細管という部分が、がん化して腫瘍になったもので、腎がんは左右どちらの腎臓にも同じ程度に発生します。小児に発生するのはウイルス腫瘍です。別に腎臓では尿が集まる場所の

腎盂(じんご)に発生する腎盂がん、ほか同じがん仲間である腎盂がんもあ

早期がんが若年者にも発見されるようになってきました。最初に現れる症状は血尿です。肉眼で分かるほど

見に役立っています。治療は腫瘍を摘出する手術が原則です。最近、腹部に小さな穴を数個開ける

転移の見られない人の術後の経過は良く、5年生存率は約80%です。転移や再発は約5%に見られますが、この病気には効く抗がん剤がないので、転移が見られたら、インターフェロンの投与や放射線の照射などの治療が試みられます。また、最新医療ではがんは治せないが、進行を止める薬も開発されています。

最初に現れる症状は血尿

ります。

腎がんは10万人に男性では8・5人、女性では3・2人で、ほとんどは50歳以降です。超音波検査、CT

などの画像検査の普及で、腫瘍(しゅりゅう)が触れ

真つ赤な尿が痛みを伴わずに間欠的に出たり、尿潜血が陽性だけのこともあり、血尿の程度はまちまちです。大きくなると、腹部に

だけ、大きく切開しない腹腔鏡下での手術も、できるようになりました。腎臓は2個あるので、1個摘出して、残った腎臓がその分を補充して十分に働くよ

【メモ】石井クリニックのホームページは、<http://www.ishii-clinic.jp/>